

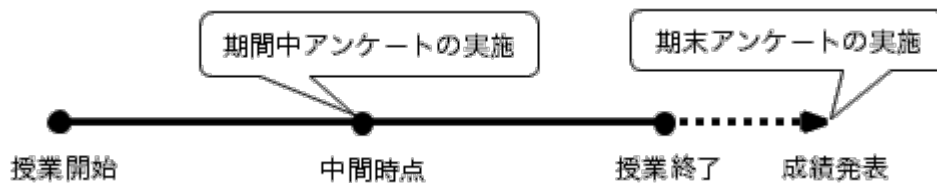
2014年度 経済学部 前期授業「授業評価アンケート」報告書

経済学部教務委員（授業評価アンケート担当）

1. 2014年度授業評価アンケートの実施概要と重点課題

(1) 実施概要

経済学部では、各授業において授業改善に役立てるために授業評価アンケートを期間中と期末の2回実施している。



- ・ 期間中アンケート：授業期間中の中間時点で授業担当教員が実施し、開講期間中の授業方法の改善を目的としている。
- ・ 期末アンケート：授業終了後、成績発表時に nfu.jp システムにて実施し、次年度以降の授業改善に役立てることを目的にしている。

担当教員は、授業期間中アンケートと期末アンケートの結果を踏まえて「授業評価アンケート結果報告書」を作成し、授業方法の改善や内容の検討を行っている。担当教員が作成した「授業評価アンケート結果報告書」は、学事課にて学生に開示、閲覧できるようにしている。

(2) 2014年度授業評価アンケートの重点課題

2014年度は、昨年度に引き続き、①学生が落ち着いて授業に取り組めるように授業環境を良くする、②学生の総学修時間を増加させる、の2点を重点課題とした。

2. 本報告書の対象科目

本報告書の対象科目は表1の10科目のうち、前期開講の6科目である。

経済学、経済経営のための数学の2科目は必修科目である。経営学、金融論、ミクロ経済学、法律学、社会政策、財政学、マクロ経済学、会計学の8科目は、これらの中から4科目を選択して修得することが卒業条件になる必須選択科目である。これら10科目は、いわば学部のコア的な専門科目として位置づけられている。

表1 本報告書の対象科目

2014年度【前期開講科目】		2014年度【後期・通年開講科目】	
1	経済学	1	社会政策
2	経済経営のための数学	2	財政学
3	経営学	3	マクロ経済学（通年）
4	金融論	4	会計学（通年）
5	ミクロ経済学		
6	法律学		

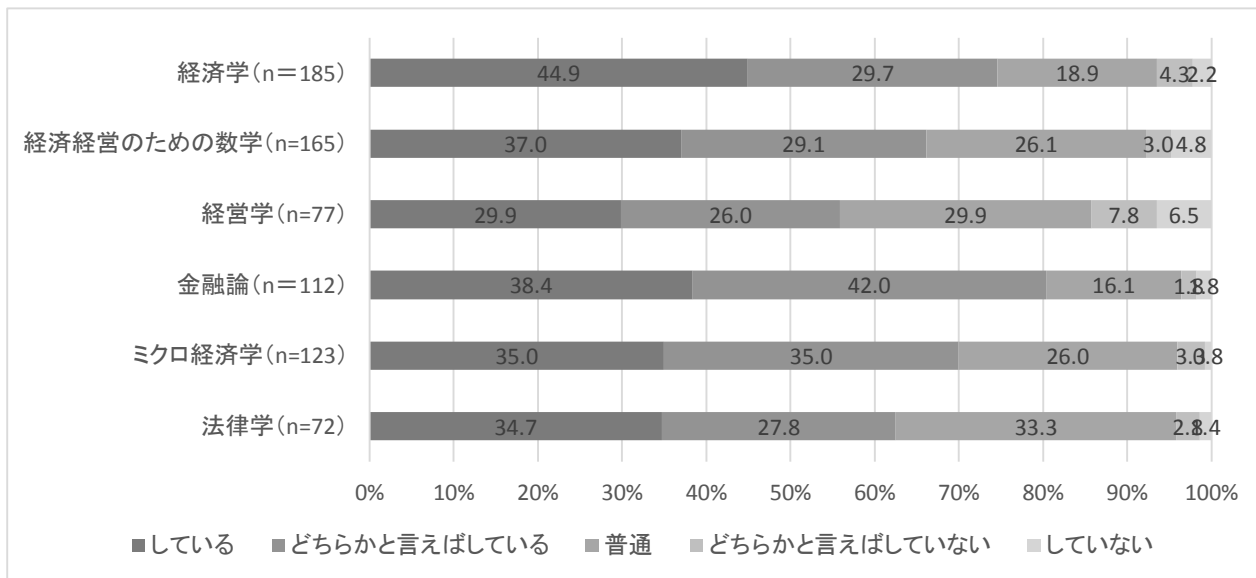
3. 2014 年度授業評価アンケート回答結果～重点課題について～

前述したように、2014 年度学部授業改善の 2 つの重点課題として、①学生が落ち着いて授業に取り組めるように授業環境を良くする、②学生の総学修時間を増加させる、を教員の報告書と期末アンケート結果に基づきまとめた。

(1) ①学生が落ち着いて授業に取り組めるように授業環境を良くする

【設問 7】教員は、私語や授業態度を注意して落ち着いて学習できるような授業をしていましたか。（あてはまるものを 1 つ選んで下さい。）

図 1 設問 7 の回答結果（n は回答者数）



<アンケートの回答結果>

回答学生のうち半数以上が、「教員が私語や授業態度を注意して落ち着いて学習できるような授業をしている、あるいはどちらかと言えばしている」と回答している。この結果から、おおむね教員の授業対応について肯定的な評価を得ているといえる。

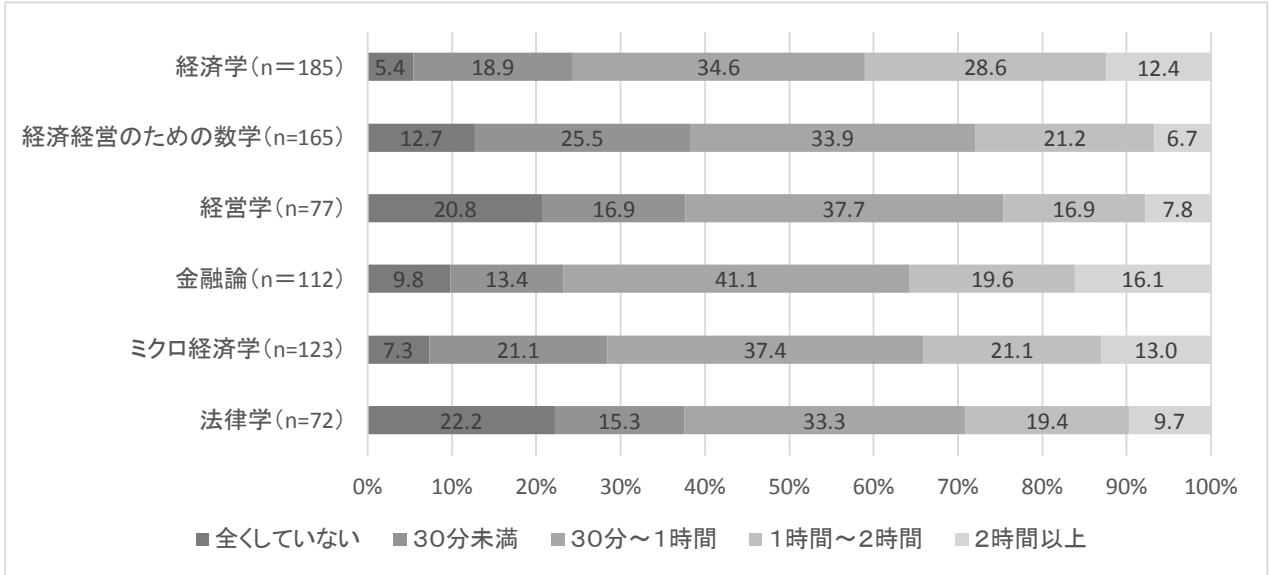
<担当教員の取り組み>

- ・学生の私語に関しては、学生の自尊心をくすぐるような注意喚起を行った。具体的には、該当者ではなく、全員に対して優しく私語をしてはいけない理由を述べると効果は大きかった。
- ・私語対策：教室全体で 1 度目は注意、2 度目は席を離す、3 度目は前に座らせる、その後は退室を促す。
- ・私語を注意するだけでなく、隣の席をあけてすわるようにした。
- ・後半、少し授業のペースを上げることに意識し過ぎたことから、静粛な授業環境の整備に漏れが出たと反省している。／なお、授業時の集中力を維持できるよう、講義途中に 2～3 分の休憩をとることにした。休憩があることで、授業に集中しやすくなるという学生の声があった。
- ・一部に集中力に欠ける学生が複数存在した。本人達には周囲に迷惑をかけているという自覚がない。注意すること自体が他の学生の迷惑になる。こういう学生は自分の将来について考え直した方がよい。

(2) ②学生の総学修時間を増加させる

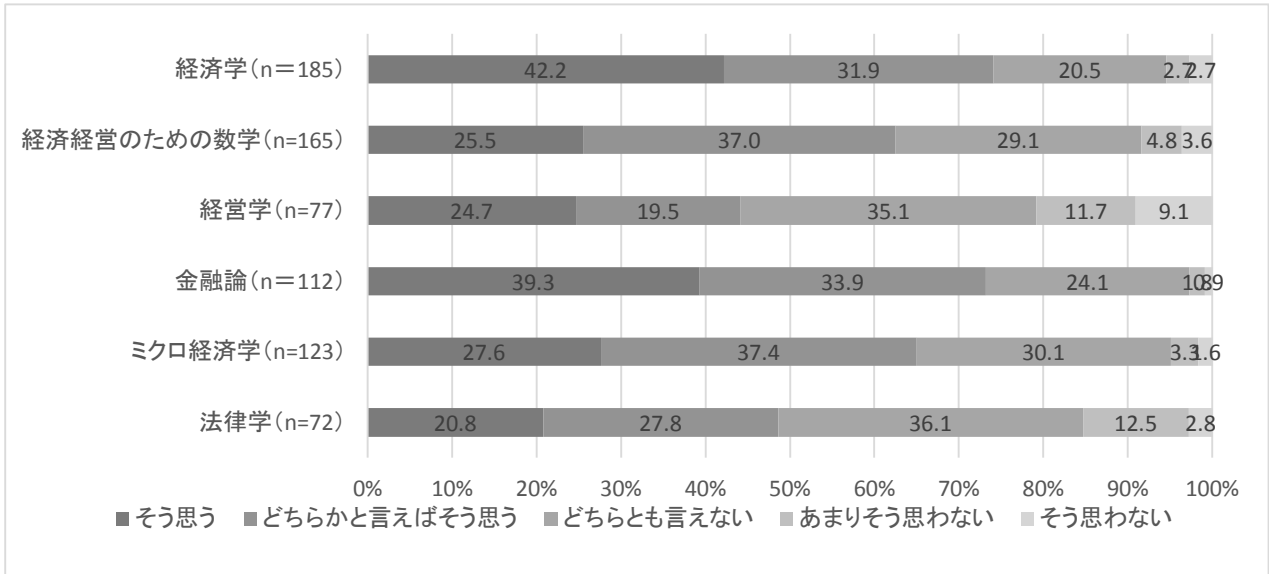
【設問 9】あなたは 1 回の授業に対して、どの程度勉強しましたか。（あてはまるものを 1 つ選んで下さい。）

図 2 設問 9 の回答結果（n は回答者数）



【設問 10】この授業は、宿題、予習、復習をするような授業構成と教材（テキスト、レジュメなど）になっていましたか。（あてはまるものを 1 つ選んで下さい。）

図 3 設問 10 の回答結果（n は回答者数）



<回答結果から>

回答学生のうち半数以上が、1 回の授業に対して 30 分以上は勉強していると回答している。教員が「宿題、予習、復習をするような授業構成と教材（テキスト、レジュメなど）」にしていることがこの結果に結びついていると考えてよいだろう。

1 回の授業に対して「全く勉強をしていない」「30 分未満」と回答した学生が、科目によるばらつきはあるが 2 割強から 5 割弱程度いる。この層の学生にどのようにして勉強に取り組ませるか、ということが今後の課題になるだろう。ただし、この中には K 評価の学生も含まれている。

<担当教員の取り組み>

- ・毎回の授業で、予習や復習を兼ねた宿題（30分程度のもの）を課していることが要因であると考え。今後も適切な量の宿題を用意する。
- ・約2回の授業に対し1回の割合で、宿題プリントを配布した。／授業開始時の約5分、前回の授業内容を確認するための問題を解かせた。／中間テストを実施した。／一部（4回）、オンデマンド教材の予習を前提とした講義を行った。
- ・毎回の授業では、必ず前回の講義の復習をするよう、また次回の授業内容を必ず告知するように努めた。
- ・毎回の授業で、その日の授業を復習するための自習用プリントを配布した。／レポート課題を与えた（提出は任意）。
- ・宿題を全5回課したほか、中間期の確認テストおよび期末試験前に復習問題を提示し、定期的に学習内容を振り返ることができるようにした。また、必要に応じて学習支援室で補習等を実施し、理解が不十分な箇所を重点的に抑えるようにした。
- ・毎回宿題を出して平常点に入れた。学習支援室でサポートした。
- ・テキストを作成し、学生に配付していたことで予習にも役だったと考える。
- ・毎回、課題を出している。真面目に取り組めば、それ相応の時間の要するはずである。そうでない学生については真剣に取り組む姿勢がないからである。／できない課題については再度、解くように指導した。
- ・2回に1回の講義で宿題を課した。集めた解答用紙を、学生が問題を解いている時間帯に採点し、その場で返却した。成績の振るわない学生には再提出を求め、一定の緊張感があったと考える。

4. 論点

これまで学部として、学生が落ち着いて授業に取り組めるように授業環境を良くすること、学生の総学修時間を増加させることに取り組んできた。

- ① 学生が落ち着いて授業に取り組めるように授業環境を良くする
 - ・教員は、私語の注意や授業態度について適時学生に注意や指導を与えることが必要である。ただし、「注意すること自体が他の学生の迷惑になる」ことを意識しておくことは必要だろう。
 - ・「授業中、無許可で教室を退出・徘徊することを黙認しているケースがある。他の授業に対しても影響を及ぼすので、学部の方針としてとして厳禁すべき。」との意見があった。
- ② 学生の総学修時間を増加させる
 - ・学生の理解を深めるためには、予習や復習を兼ねた宿題や課題は欠かせない。また、適時小テストや中間試験を行うと、真面目な学生ほど肯定的に受取り、振り返り学習や、学習上の自分の位置確認をできる。ただし、全ての科目で小テストや中間試験などの日程が重なると、過度な学生負担になりかねない恐れがある。そこで、小テストや中間試験などの日程を、科目間でずらすような工夫をしてはどうだろうか。
 - ・理論の解説と例題、理論を用いたビジネスニュースなどの資料映像解説を組み合わせることで、期末試験のための授業理解ではなく、経済理論を実践的に使用するための授業理解であることを強調した。映像は個人で有料契約しているビジネスニュース（オンデマンド配信）を利用しているが、学生が繰り返し視聴できる環境を整えることができると、より主体的な学びを追求するようになるかもしれない。

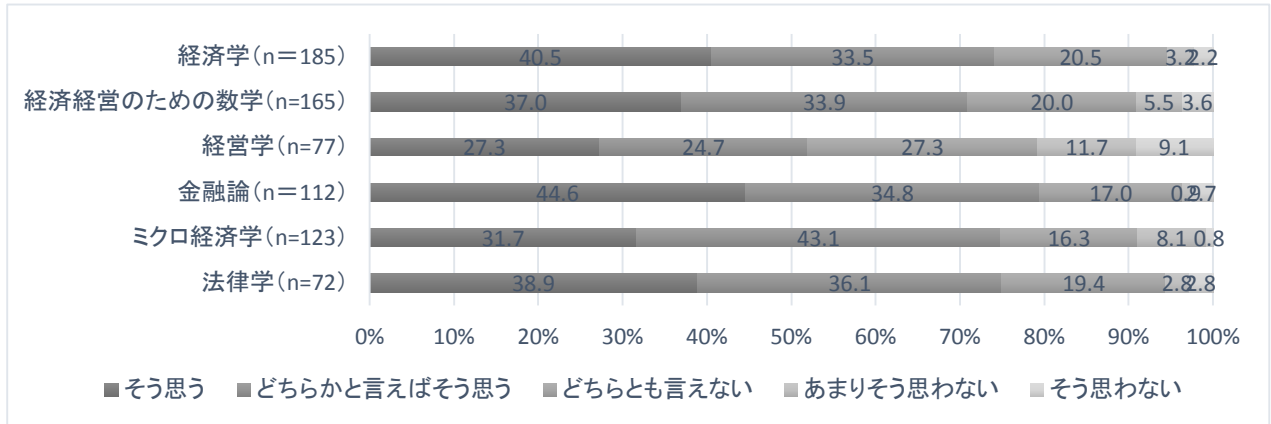
授業評価アンケートの結果を、学部としてどのように教育の改善に結び付けていくかを具体的に検討していくことが今後の課題である。

5. 参考

以下、参考資料として、3. で取りあげた設問7、9、10以外の結果を示しておく。

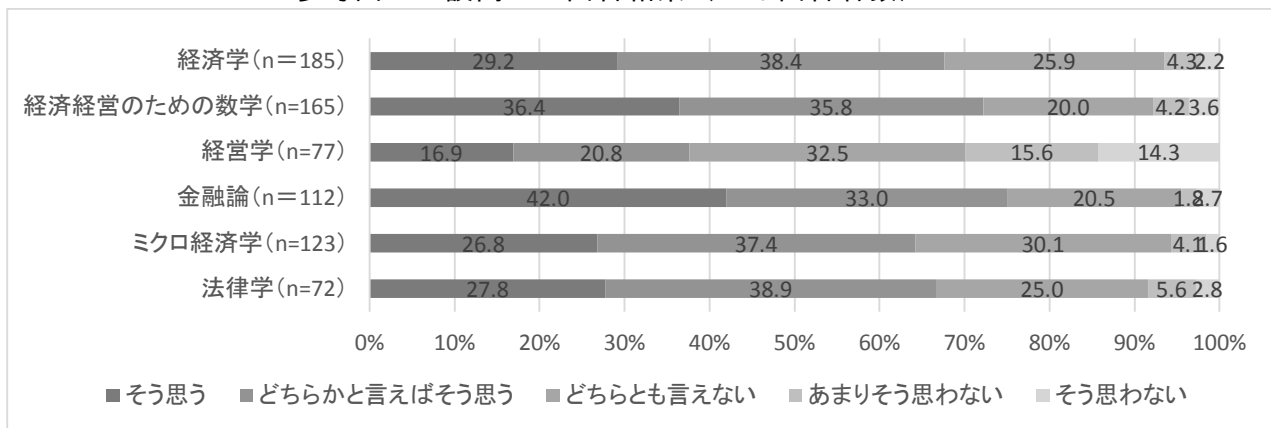
【設問1】あなたはこの授業に頑張って取り組みましたか。(あてはまるものを1つ選んで下さい。)

参考図1 設問1の回答結果 (nは回答者数)



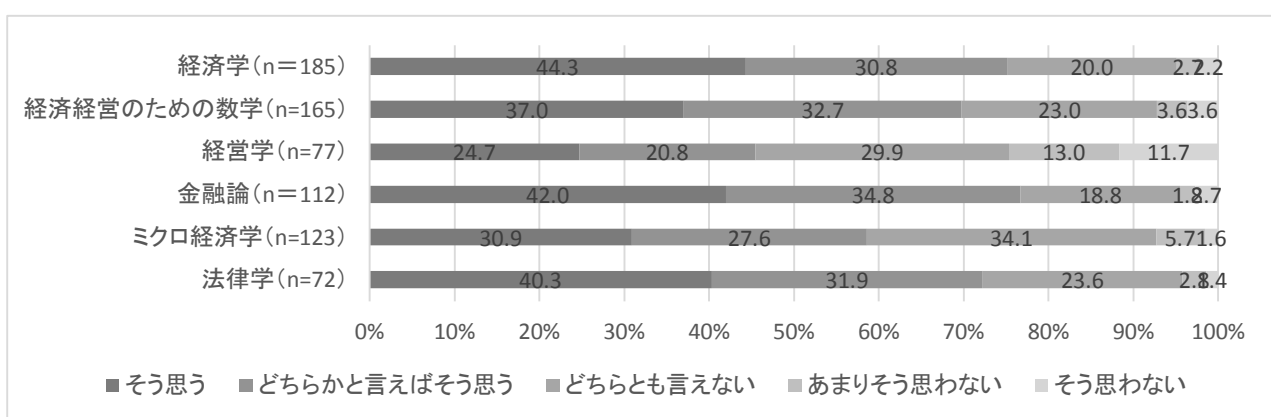
【設問2】授業の目標・内容について理解できましたか。(あてはまるものを1つ選んで下さい。)

参考図2 設問2の回答結果 (nは回答者数)



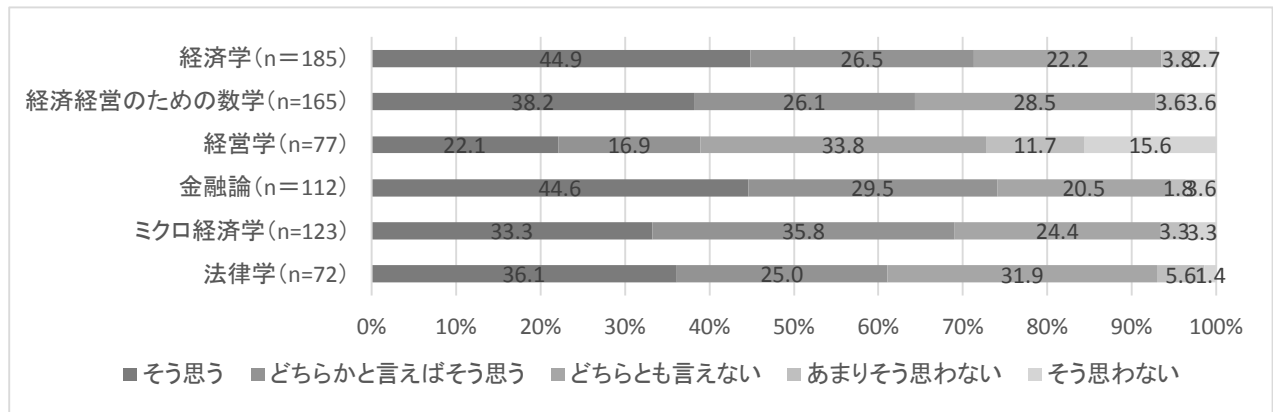
【設問3】教材(テキスト、レジュメなど)は授業の理解に役立ちましたか。(あてはまるものを1つ選んで下さい。)

参考図3 設問3の回答結果 (nは回答者数)



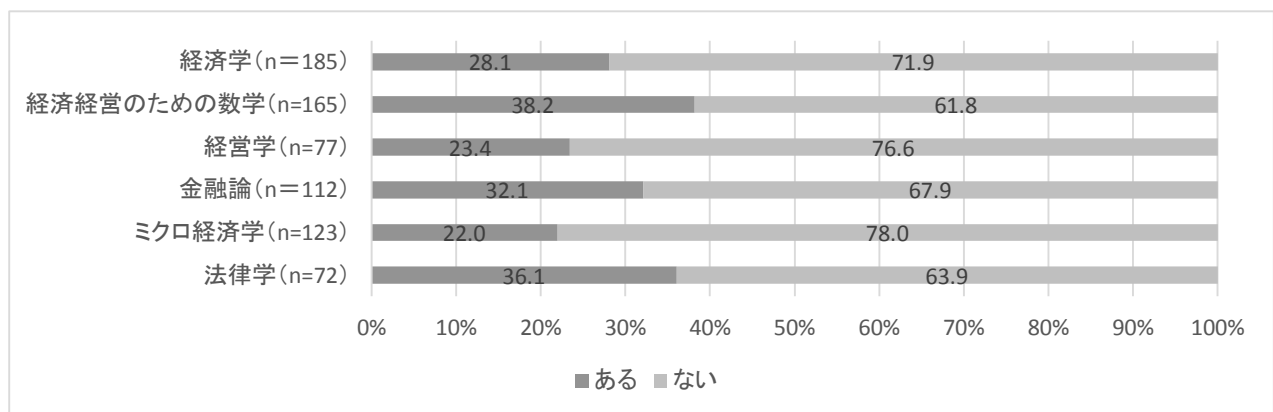
【設問4】 教員は積極的で判りやすい授業をしましたか。（あてはまるものを1つ選んで下さい。）

参考図4 設問4の回答結果（nは回答者数）



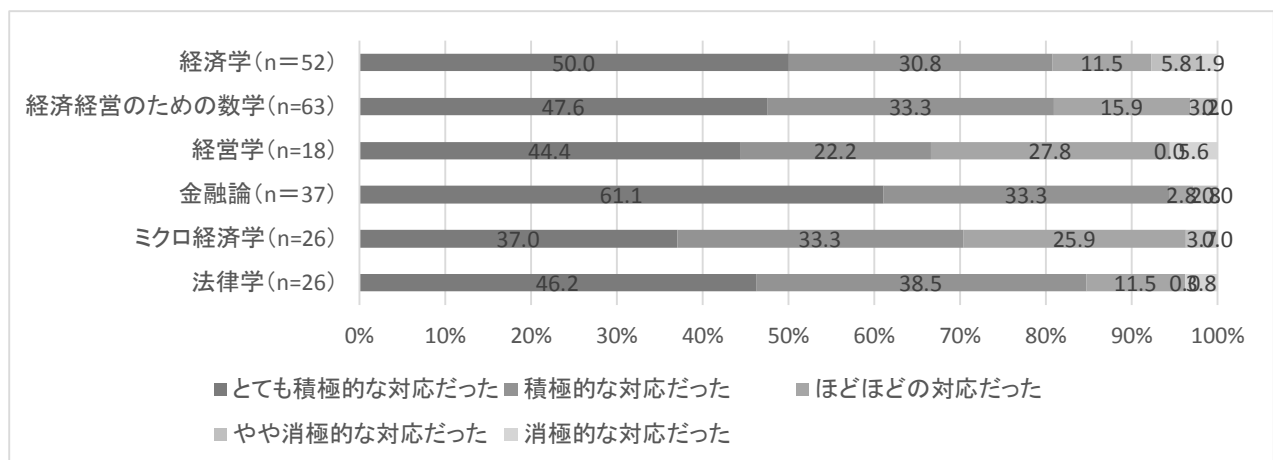
【設問5】 教員に授業内容について質問をしたことがありますか。（あてはまるものを1つ選んで下さい。）

参考図5 設問5の回答結果（nは回答者数）



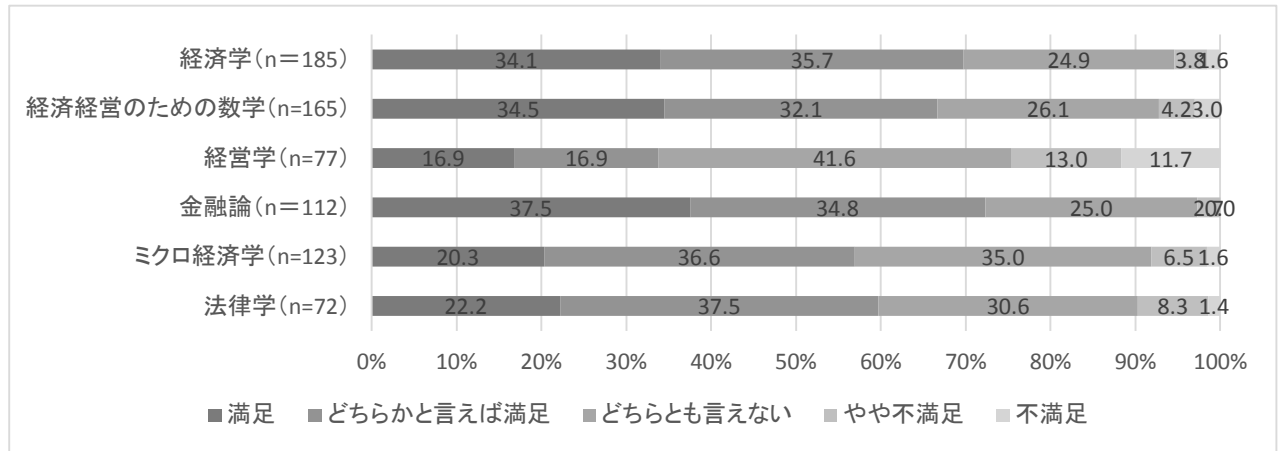
【設問6】 質問5で「1.ある」と答えた人のみ回答してください。質問・相談をしたときの教員の対応はどうでしたか。（あてはまるものを1つ選んで下さい。）

参考図6 設問6の回答結果（nは回答者数）



【設問8】授業全体に対する満足度はどの程度ですか。（あてはまるものを1つ選んで下さい。）

参考図7 設問8の回答結果（nは回答者数）



以上

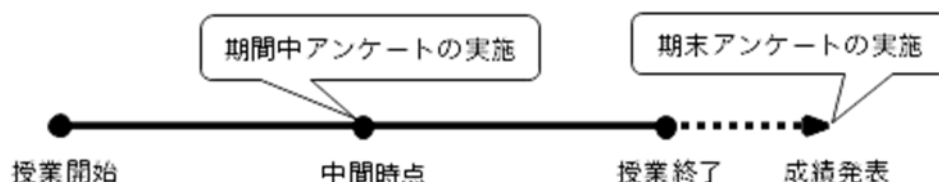
2014年度 経済学部 「授業評価アンケート」報告書

経済学部教務委員（授業評価アンケート担当）

1. 2014年度授業評価アンケートの実施概要と重点課題

(1) 実施概要

経済学部では、各授業において授業改善に役立てるために授業評価アンケートを期間中と期末の2回実施している。



- ・ 期間中アンケート：授業期間中の中間時点で授業担当教員が実施し、開講期間中の授業方法の改善を目的としている。
- ・ 期末アンケート：授業終了後、成績発表時に nfu.jp システムにて実施し、次年度以降の授業改善に役立てることを目的としている。

担当教員は、授業期間中アンケートと期末アンケートの結果を踏まえて「授業評価アンケート結果報告書」を作成し、授業方法の改善や内容の検討を行っている。担当教員が作成した「授業評価アンケート結果報告書」は、学事課にて学生に開示、閲覧できるようにしている。

(2) 2014年度授業評価アンケートの重点課題

2014年度は、昨年度に引き続き、①学生が落ち着いて授業に取り組めるように授業環境を良くする、②学生の総学修時間を増加させる、の2点を重点課題とした。

2. 本報告書の対象科目

本報告書の対象科目は表1の10科目である。

経済学、経済経営のための数学の2科目は必修科目である。経営学、金融論、ミクロ経済学、法律学、社会政策、財政学、マクロ経済学、会計学の8科目は、これらの中から4科目を選択して修得することが卒業条件になる必須選択科目である。これら10科目は、いわば学部のコア的な専門科目として位置づけられている。

表1 本報告書の対象科目

2014年度【前期開講科目】		2014年度【後期・通年開講科目】	
1	経済学	1	社会政策
2	経済経営のための数学	2	財政学
3	経営学	3	マクロ経済学（通年）
4	金融論	4	会計学（通年）
5	ミクロ経済学		
6	法律学		

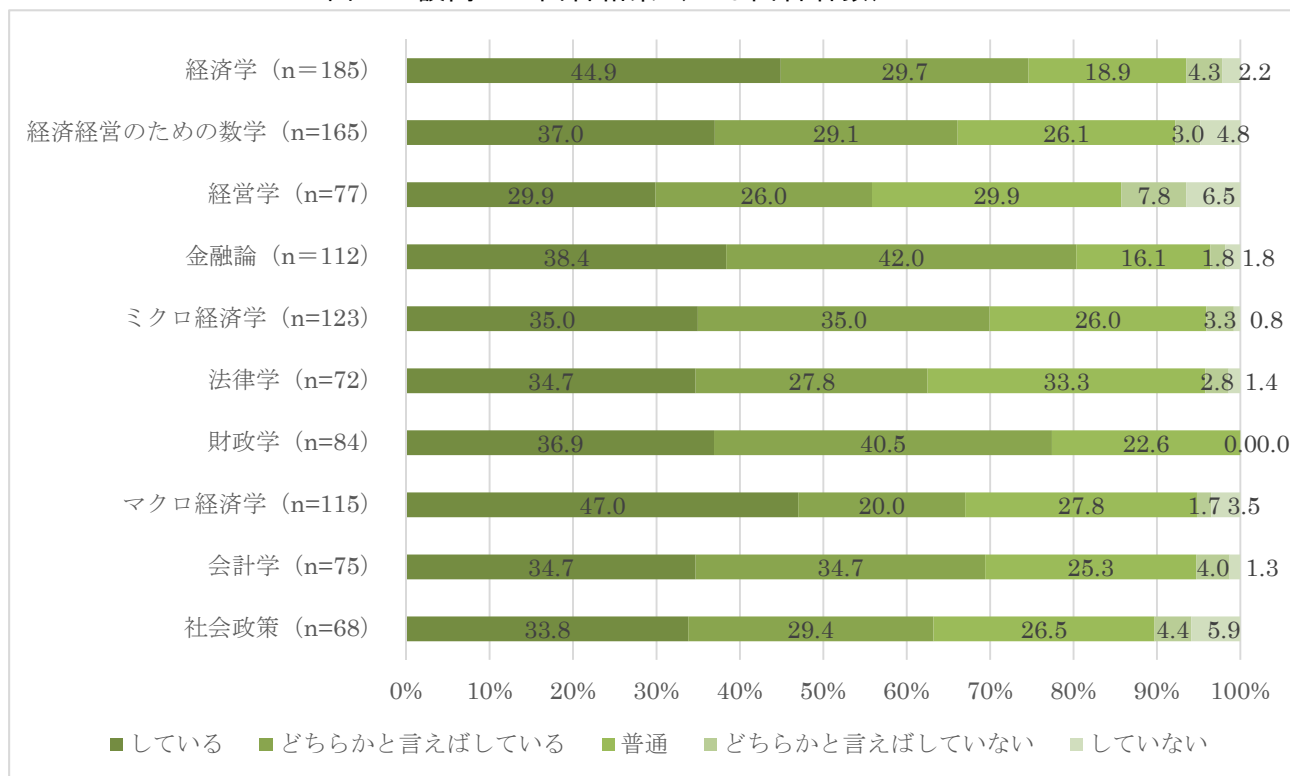
3. 2014 年度授業評価アンケート回答結果～重点課題について～

前述したように、2014 年度学部授業改善の 2 つの重点課題として、①学生が落ち着いて授業に取り組めるように授業環境を良くする、②学生の総学修時間を増加させる、を教員の報告書と期末アンケート結果に基づきまとめた。

(1) ①学生が落ち着いて授業に取り組めるように授業環境を良くする

【設問 7】教員は、私語や授業態度を注意して落ち着いて学習できるような授業をしていましたか。（あてはまるものを 1 つ選んで下さい。）

図 1 設問 7 の回答結果（n は回答者数）



<アンケートの回答結果>

回答学生のうち半数以上が、「教員が私語や授業態度を注意して落ち着いて学習できるような授業をしている、あるいはどちらかと言えばしている」と回答している。この結果から、おおむね教員の授業対応について肯定的な評価を得ているといえる。

<担当教員の取り組み>

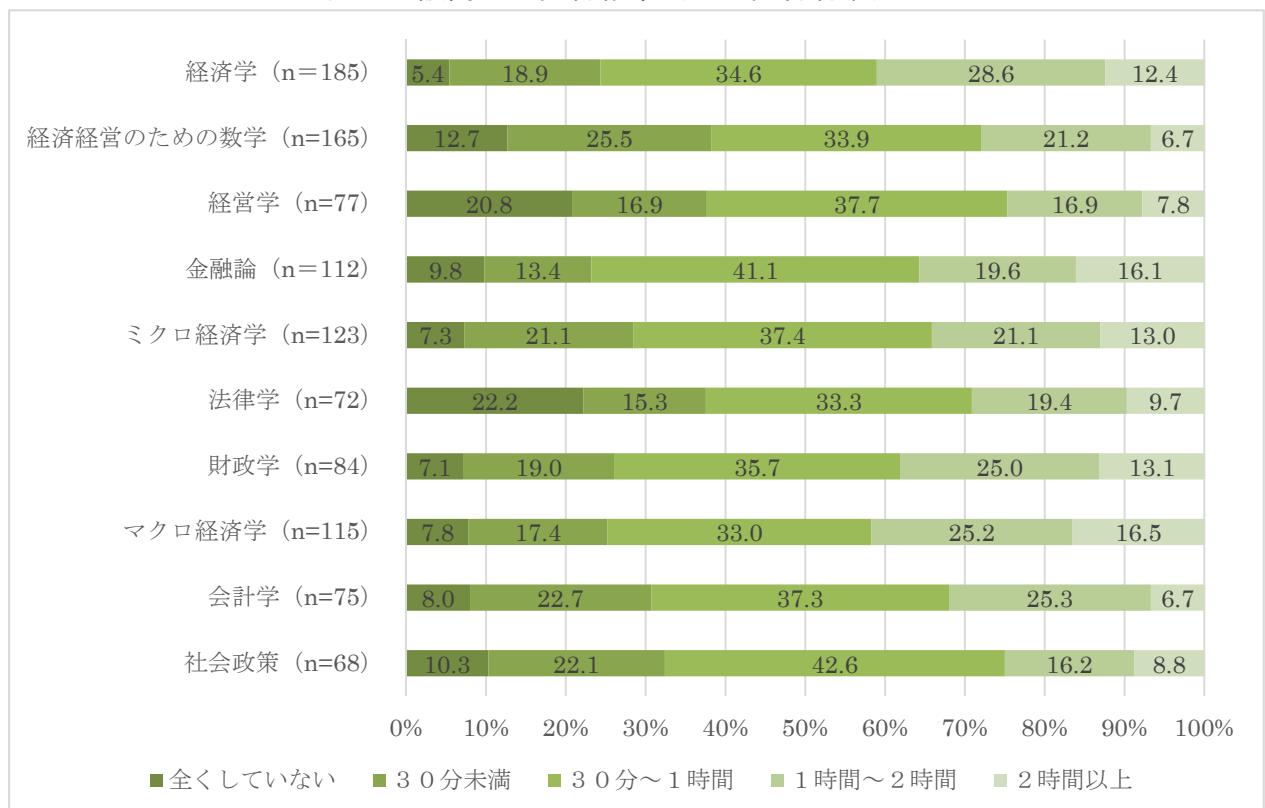
- ・ 昨年のアンケート結果から私語や授業態度に対する教員の働きかけについて約 3 割の学生が「ふつう」と回答していた。このことを踏まえて、授業に集中できるように適時学生に注意喚起を払った。今年度の中間アンケートで「教員の働きかけがなされていない」が 64 名中 2 名いたが、期末アンケートでは 0 名になった。一定の効果はあったと思われるが、ただ注意喚起をするのではなく、学生が自然に授業に取り組むような雰囲気を作り出す仕組みを検討したい。
- ・ いつも授業のはじめに、「私語は禁止」ということについてかなり厳しく注意を与えていることから、幸い、静かな環境の中で、学生が落ち着いて授業に取り組むことができたものと考えている。
- ・ 最終的には、学生個人の問題であろう。やる気がないのであれば、出席する必要性はないし、単位も取得する必要性はない。

- ・学生の私語に関しては、学生の自尊心をくすぐるような注意喚起を行った。具体的には、該当者ではなく、全員に対して優しく私語をしてはいけない理由を述べると効果は大きかった。
- ・私語対策：教室全体で1度目は注意、2度目は席を離す、3度目は前に座らせる、その後は退室を促す。
- ・私語を注意するだけでなく、隣の席をあけてすわるようにした。
- ・後半、少し授業のペースを上げることに意識し過ぎたことから、静粛な授業環境の整備に漏れが出たと反省している。／なお、授業時の集中力を維持できるよう、講義途中に2～3分の休憩をとることにした。休憩があることで、授業に集中しやすくなるという学生の声があった。
- ・一部に集中力に欠ける学生が複数存在した。本人達には周囲に迷惑をかけているという自覚がない。注意すること自体が他の学生の迷惑になる。こういう学生は自分の将来について考え直した方がよい。

(2) ②学生の総学修時間を増加させる

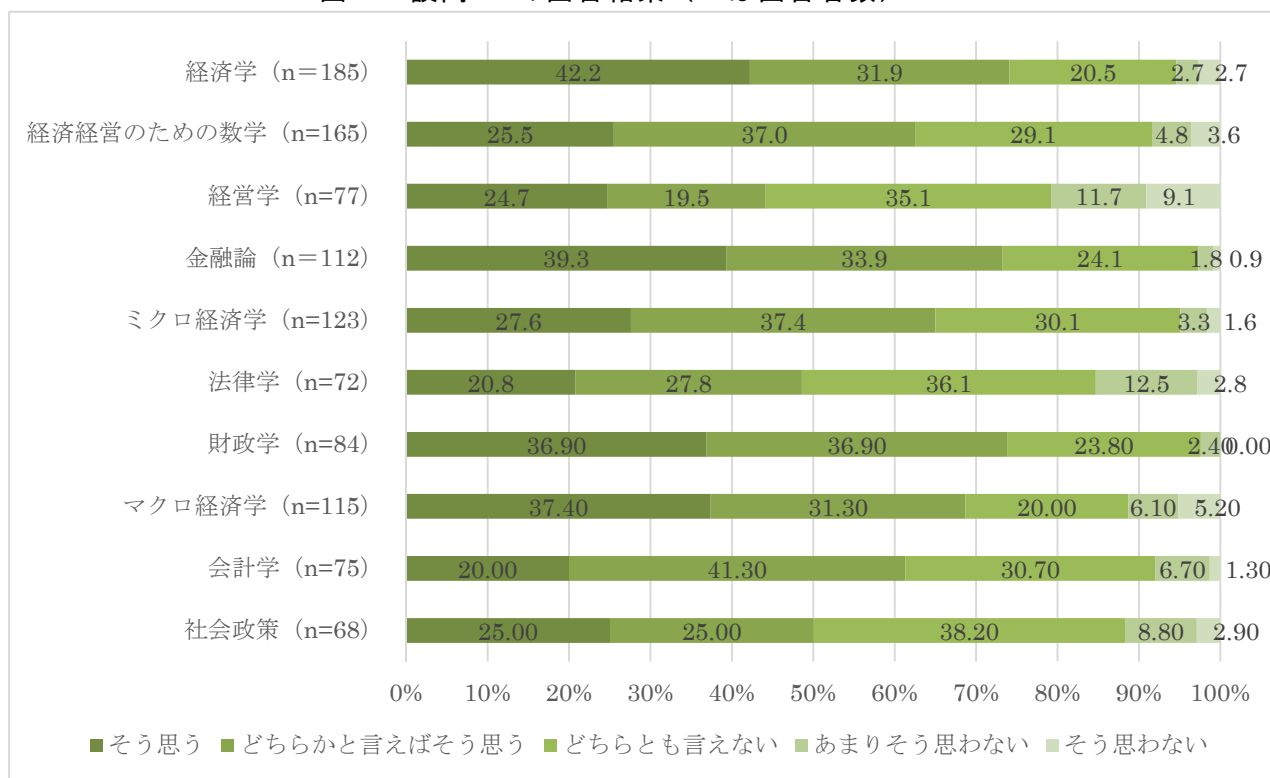
【設問9】あなたは1回の授業に対して、どの程度勉強しましたか。(あてはまるものを1つ選んで下さい。)

図2 設問9の回答結果 (nは回答者数)



【設問 10】この授業は、宿題、予習、復習をするような授業構成と教材（テキスト、レジュメなど）になっていましたか。（あてはまるものを1つ選んで下さい。）

図3 設問10の回答結果（nは回答者数）



<回答結果から>

回答学生のうち半数以上が、1回の授業に対して30分以上は勉強していると回答している。教員が「宿題、予習、復習をするような授業構成と教材（テキスト、レジュメなど）」にしていることがこの結果に結びついていると考えてよいだろう。

1回の授業に対して「全く勉強をしていない」「30分未満」と回答した学生が、科目によるばらつきはあるが2割強から5割弱程度いる。この層の学生にどのようにして勉強に取り組ませるか、ということが今後の課題になるだろう。ただし、この中にはK評価の学生も含まれている。

<担当教員の取り組み>

- ・毎回の授業で復習を意図した宿題、次回の授業の予習箇所を伝えて、予習復習をさせるような仕組みを心がけている。
- ・毎回、授業の開始時に、前回の授業のポイントを指摘しまとめを行うとともに、授業の最後に、当該授業の内容のポイントのまとめを行い当該内容の理解を深めることに加え、次回の授業のおよそのポイントをあらかじめ指摘しておくことで、学生が予習・復習を行いやすくなるよう配慮した。
- ・毎回の授業で、予習や復習を兼ねた宿題（30分程度のもの）を課していることが要因であると考えられる。今後も適切な量の宿題を用意する。
- ・約2回の授業に対し1回の割合で、宿題プリントを配布した。／授業開始時の約5分、前回の授業内容を確認するための問題を解かせた。／中間テストを実施した。／一部（4回）、オンデマンド教材の予習を前提とした講義を行った。

- ・毎回の授業では、必ず前回の講義の復習をするよう、また次回の授業内容を必ず告知するように努めた。
- ・毎回の授業で、その日の授業を復習するための自習用プリントを配布した。／レポート課題を与えた（提出は任意）。
- ・宿題を全 5 回課したほか、中間期の確認テストおよび期末試験前に復習問題を提示し、定期的に学習内容を振り返ることができるようにした。また、必要に応じて学習支援室で補習等を実施し、理解が不十分な箇所を重点的に抑えるようにした。
- ・毎回宿題を出して平常点に入れた。学習支援室でサポートした。
- ・テキストを作成し、学生に配付していたことで予習にも役だったと考える。
- ・毎回、課題を出している。真面目に取り組めば、それ相応の時間の要するはずである。そうでない学生については真剣に取り組む姿勢がないからである。／できない課題については再度、解くように指導した。
- ・2 回に 1 回の講義で宿題を課した。集めた解答用紙を、学生が問題を解いている時間帯に採点し、その場で返却した。成績の振るわない学生には再提出を求め、一定の緊張感があったと考える。

4. 論点

過去 4 年間にわたって学部として、学生が落ち着いて授業に取り組めるように授業環境を良くすること、学生の総学修時間を増加させることに取り組んできた。

① 学生が落ち着いて授業に取り組めるように授業環境を良くする

教員は、私語の注意や授業態度について適時学生に注意や指導を与えることが必要である。ただし、「注意すること自体が他の学生の迷惑になる」ことを意識しておくことは必要だろう。

② 学生の総学修時間を増加させる

教員は、学生の理解を深めるために、予習や復習を兼ねた宿題や課題を課すことや、学生が振り返り学習や学習上の自分の位置を確認することができるよう、適時小テストや中間試験を行うことが必要である。

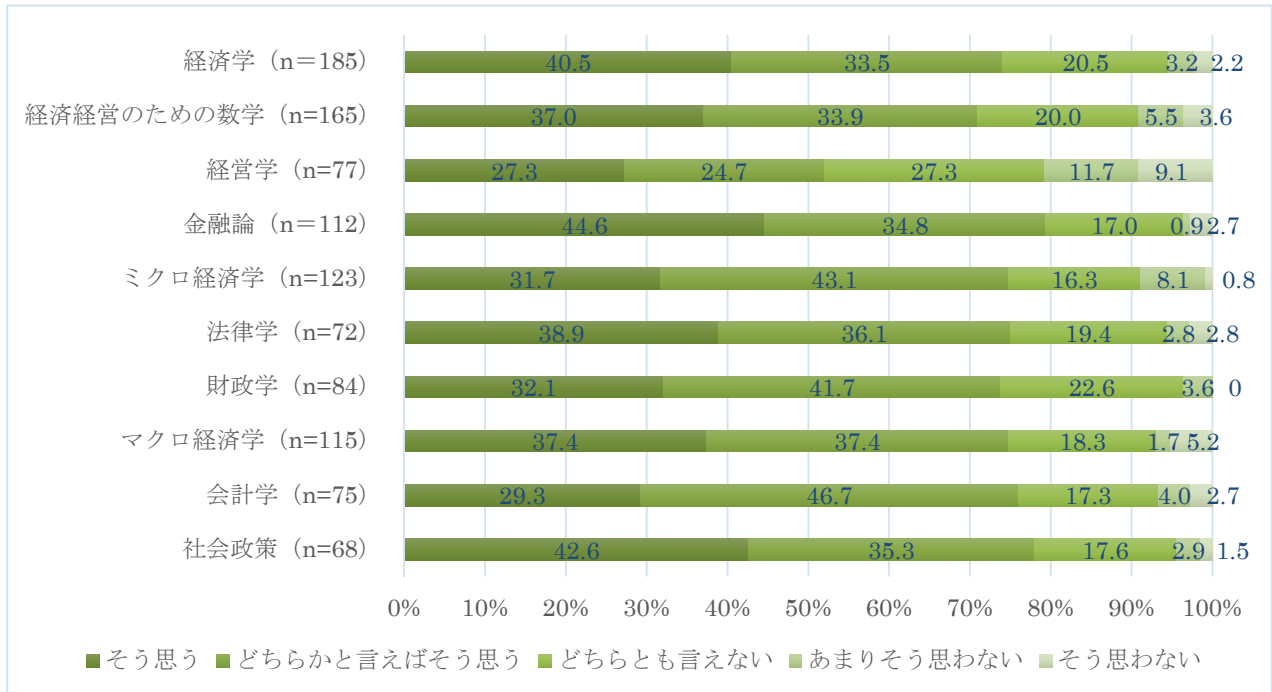
これら 2 つの取り組みについては、一定の成果をあげていると考えてよいだろう。今後もこれらの取り組みを継続するとともに、授業評価アンケートや FD 活動を通じて、学習支援を必要とする学生の発見や対応策を検討すること、学部のディプロマポリシーを踏まえた教育を実践することができているか否かの確認を行っていくことなどが必要であろう。

5. 参考

以下、参考資料として、3. で取りあげた設問7、9、10以外の結果を示しておく。

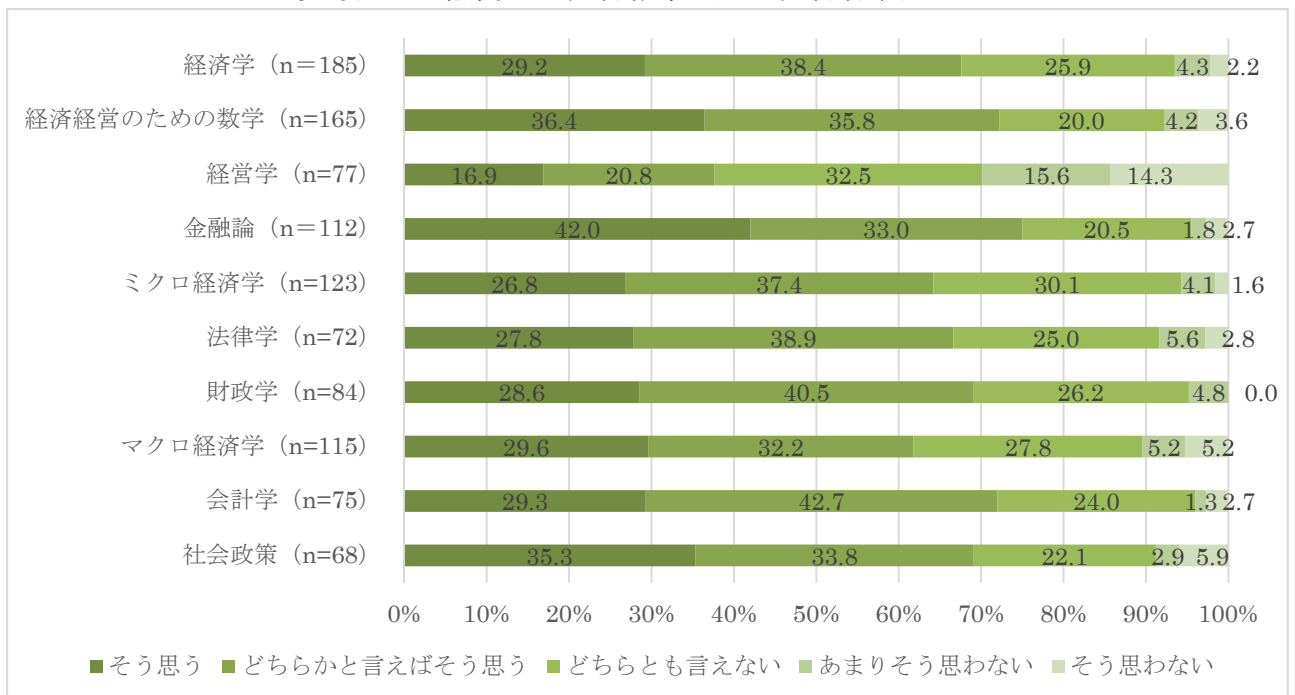
【設問1】あなたはこの授業に頑張って取り組みましたか。(あてはまるものを1つ選んで下さい。)

参考図1 設問1の回答結果 (nは回答者数)



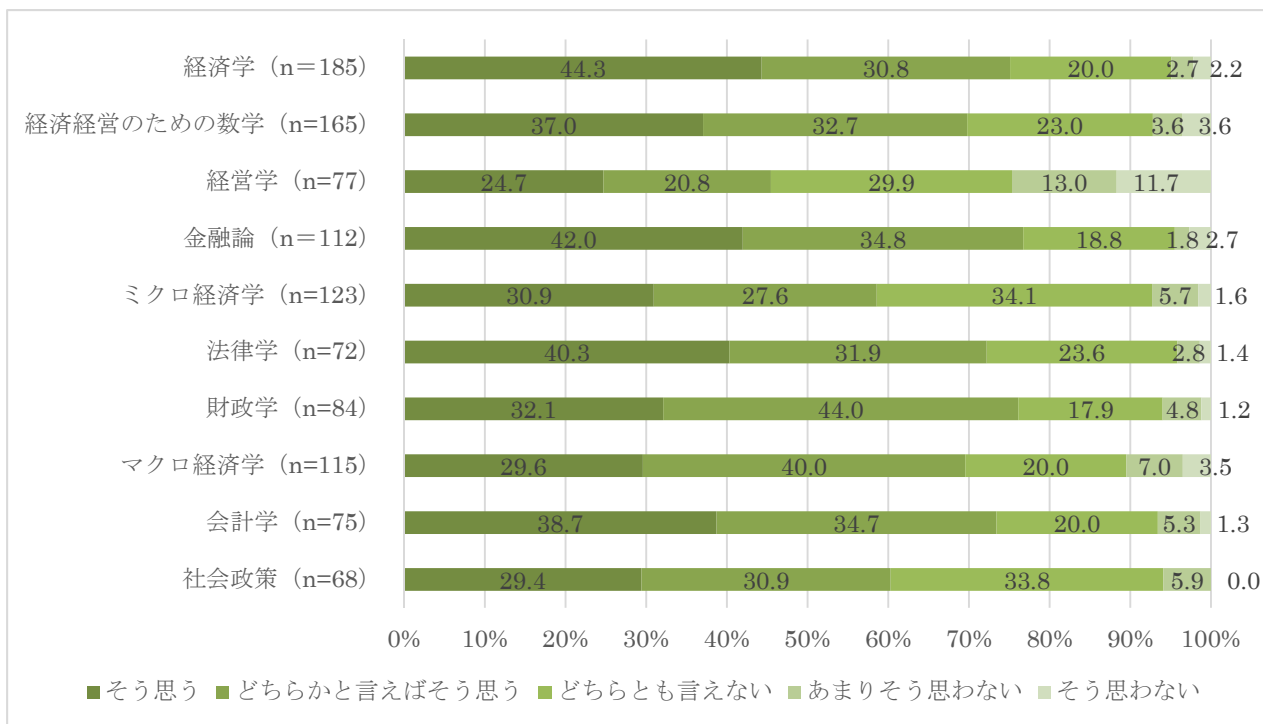
【設問2】授業の目標・内容について理解できましたか。(あてはまるものを1つ選んで下さい。)

参考図2 設問2の回答結果 (nは回答者数)



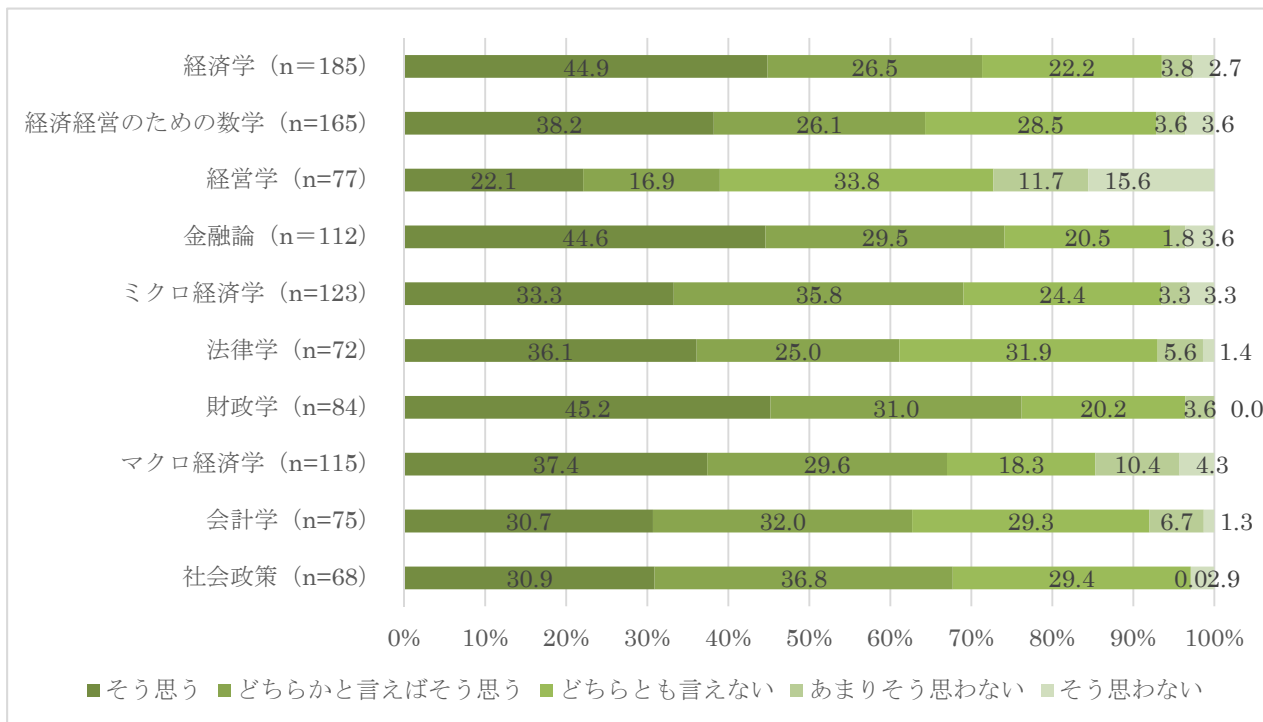
【設問3】教材（テキスト、レジュメなど）は授業の理解に役立ちましたか。（あてはまるものを1つ選んで下さい。）

参考図3 設問3の回答結果（nは回答者数）



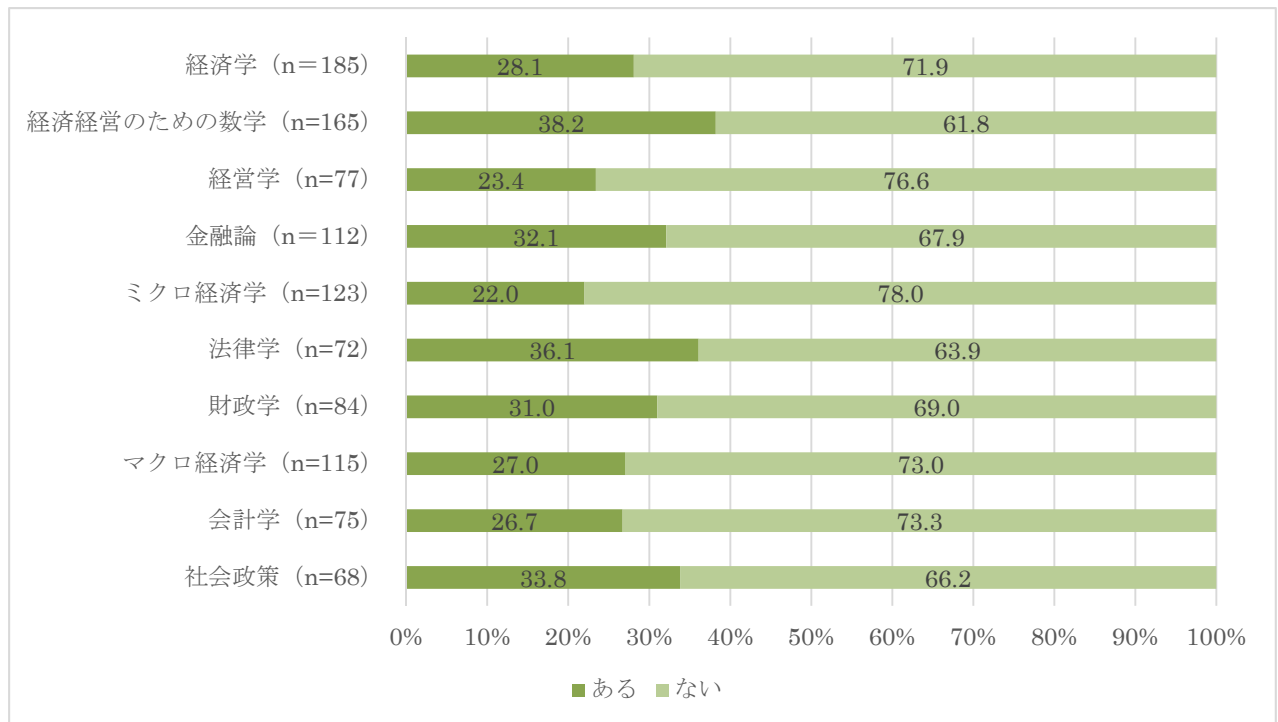
【設問4】教員は積極的で判りやすい授業をしましたか。（あてはまるものを1つ選んで下さい。）

参考図4 設問4の回答結果（nは回答者数）



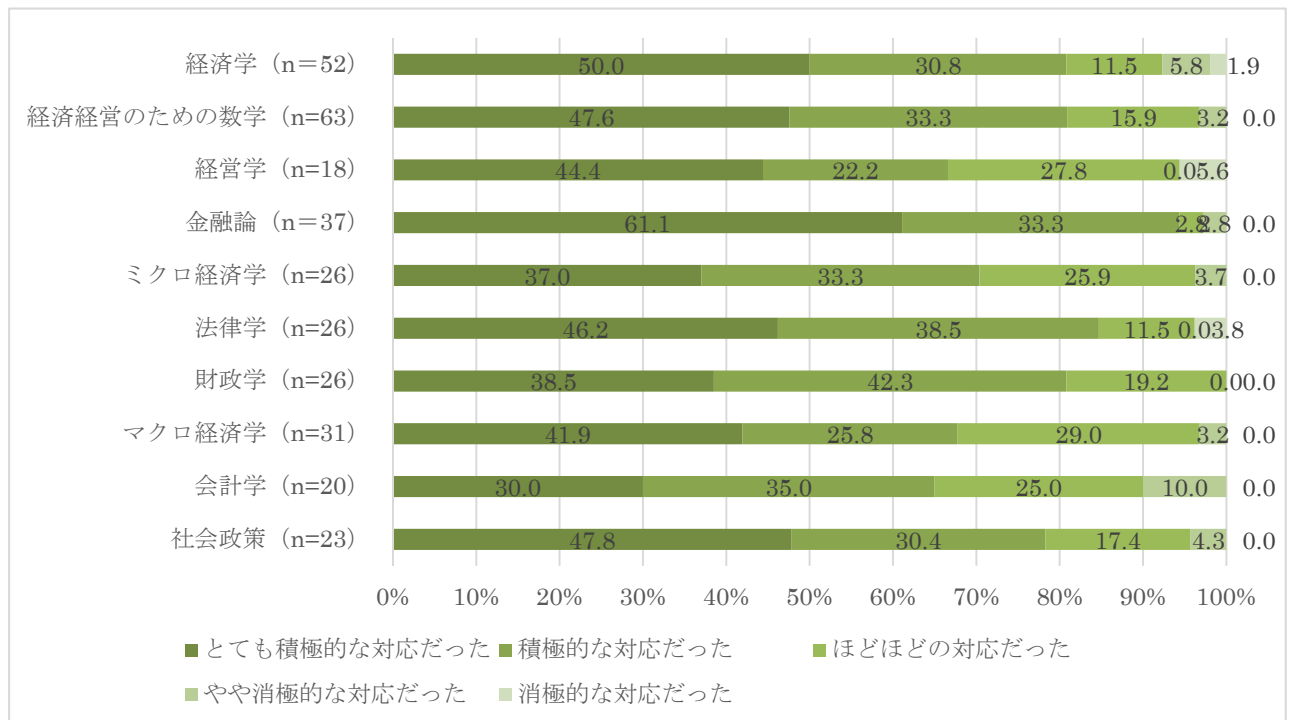
【設問5】 教員に授業内容について質問をしたことがありますか。（あてはまるものを1つ選んで下さい。）

参考図5 設問5の回答結果（nは回答者数）



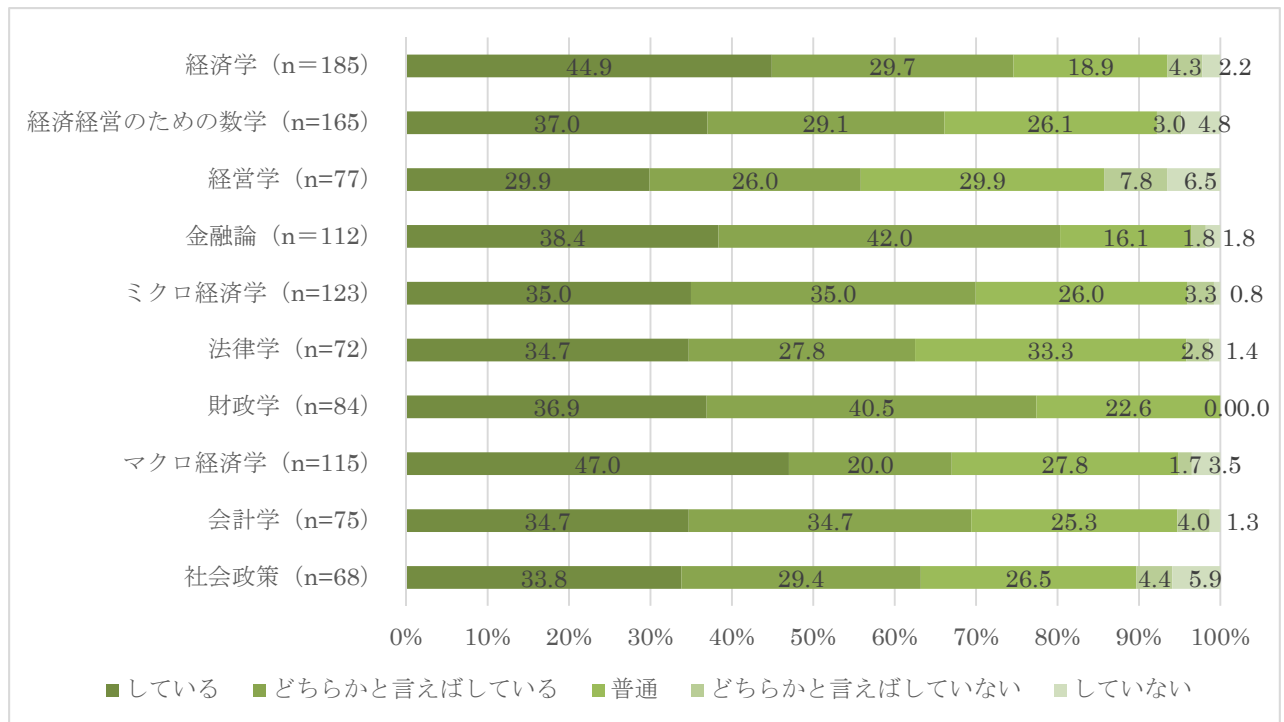
【設問6】 質問5で「1. ある」と答えた人のみ回答してください。質問・相談をしたときの教員の対応はどうでしたか。（あてはまるものを1つ選んで下さい。）

参考図6 設問6の回答結果（nは回答者数）



【設問8】授業全体に対する満足度はどの程度ですか。（あてはまるものを1つ選んで下さい。）

参考図7 設問8の回答結果（nは回答者数）



以上